

# 釜石市両石地区の現状



嵩上げされた高台上に建設された復興住宅



両石港の光景



両石駅  
(恋の峠 愛の浜)

1951年7月23日、国鉄山田線の仮乗降場として開業、1954年9月1日に駅に昇格しました。そして2019年3月23日に東日本旅客鉄道から三陸鉄道に移管されリアス線の駅となりました。かつては駅まで長い階段で登らねばならなかったが、東日本大震災後の復興工事で大規模な嵩上げが行われ町との高低差がほぼ解消されました。周辺には駅の変称となっている愛の浜海水浴場や恋の峠があります。

両石駅プラットフォームの観光掲示板。嵩上げ以前には集落と駅の間大きな高低差があった由。

釜石市両石地区については、山口彌一郎著『津浪と村』(復刻版)の中に和田文夫による調査報告「両石の漁村の生活」が挿入されていて、詳しい民俗学的考察が行われている。



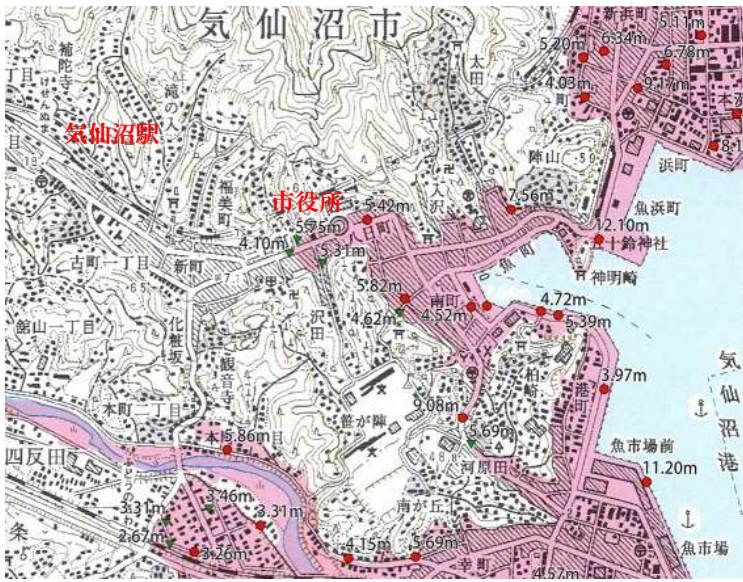
高台上に並ぶ復興住宅。右の写真の津波浸水区間の標識は嵩上げ前の情報に基づくもので嵩上げ後の実情にはそぐわないと思われる。



岩手日報(2019年1月23日)に報じられた両石地区の津波被災時(左), 嵩上げ復興直後(中央), 復興住宅を背に語り部を務める郷土史家(右)



国道45号と三陸鉄道に囲まれた明治・昭和津波の海嘯記念碑



東日本大震災津波詳細地図(原口・岩松, 2011)に見る気仙沼



盛駅の駅舎をそのまま利用したBRT



気仙沼駅も鉄道とBRTが共存する。



気仙沼市役所における津波到達高さの表示

# 気仙沼港の現状

気仙沼港は津波災害を経て、漁師町から観光主体の港町へと大きな変身を遂げたように見受けられる。



気仙沼港「お魚いちば」の外観(上)と内部(下)



気仙沼駅の駅舎と港への客を待つタクシーの列。



気仙沼港の防災地域計画の特色は景観を損なわない津波ゲートの配置にある



気仙沼港は漁港と観光船乗り場が分離され生まれ変わった



以前からあった森進一の「港町ブルース」の歌碑は健在

# 仙台から常磐線へ



観光客でにぎわう仙台駅コンコースの土産物店



常磐線の車窓から見た山下町のイチゴ農園のビニールハウス。津波災害からの早期復興で注目されていた。



震災遺構となった坂元町の旧中浜小学校校舎。津波襲来時の屋上避難で犠牲者を出さず注目を浴びた。



常磐線原ノ町駅の駅舎



原ノ町駅の1番線ホームに掲示されている『相馬野馬追』の絵図。毎年7月の最終土・日・月開催と読める。